

集合住宅での効率的な安否確認法

	団地での安否確認事例
1	向い合った同士で、電気の点灯、カーテンなどで安否確認 やり方によっては、一度に複数人の安否を確認することができる。もっといいのは、お互いが「安全」のサインを知らせ合うことだ。「私がカーテンを開けている時は大丈夫ということだからね」とか
2	エレベーターで安否確認 特に毎日同じ時間にエレベーターに乗り、あいさつを交わす者同士。エレベーター近くに住む人で、よく気の付く人は、乗降する人の安否確認をしている
3	管理人が人の出入りで たまたま世話焼きさんが管理人であったとき、この人で一挙に棟内の人たちの安否確認ができてしまう。気になる人をマークしておいて、その人の出入りも全て確認していた
4	管理人が各階のポストを見回り 実際にこれをしている管理人がいた。毎日、二回、全階の気になる人を見回っていた。管理人に限らず、棟ごとに大型世話焼きさんがいて、その人が棟内のほとんどの人の状況を知り、安否確認をしている。相手もその人を頼っている
5	同じ階の者どうしで声をかけ合い 同じ階での相互の安否確認が最適。特に部屋も近い、仲の良い者同士が、日常的におしゃべりがてら安否確認をしている、やはり世話焼きさんが1人いれば、その人を中心に行われる
6	隣室の音（水道、トイレ、風呂、足音）や明りで確認 隣の音などに敏感な人が実際に、これをしている。その集合住宅の建物の性格で、隣接した部屋の音がよく聞こえる場合と、上下の部屋の音がよく聞こえる場合がある
7	自室への通りがかりに明りなどで確認 エレベーターの行き帰りで、通りがかりの部屋の状況を常に観察している人もいる

8	<p>当事者が一日中、ドアを開けっ放しにしている</p> <p>超高齢で一人暮らしの女性が、自分の安全を守るためにこれをしている。これだと容易に安否確認ができると隣人は喜んでいる</p>
9	<p>おすそわけを日常的にしながら</p> <p>これは仲の良い者同士がやっていること。世話焼きさんの中には、親しくはないが気になるという人におすそわけを届けがてら安否確認をしている人もいる</p>
10	<p>階ごとに、井戸端会議を開きながら、安否情報を交換</p> <p>世話焼きさんが居ると、同じ階のその周りの部屋の人たちと日常的に井戸端会議を開いて、相互に安否を確認する一方で、仲間でない人の安否情報も交換している</p>
11	<p>階段委員が定期的に各室を訪問</p> <p>使命感の強い人はこれをしている。訪問する理由があるので、一応ドアは開けてもらえるので都合がいい</p>
12	<p>要援護者を階段委員にする</p> <p>こちらが見回りに行かなくても、当人が各部屋を回って「安否を確認してもらおう」のだから好都合だ。意外にこのやり方は使われているようだ</p>